



## トンボの一生の間のえさは、何なの

### ハエ、カ、アブ、ハチ、小さなガなどを食べる

トンボは空中を飛びながら、飛んでいる小さなこん虫をつかまえて食べます。田畑の害虫を食べてくれる「益虫」として、昔から、大切にされてきました。日本にはおよそ、180種類のトンボがいます。

昔、日本のことを、安芸津島（あきつしま）とよんでいました。アキツというのは、トンボの昔の呼び名です。トンボがたくさんいて、イネがよく育つ、よい国だなあと、じまんしているのです。

### トンボの目玉は大きい

歌にうたわれるように、トンボは大きな目をもっています。その目のある頭は、くるとよく回ります。飛びながら、虫をとらえるためです。口はかむ口で、がんじょうです。足にはとげがたくさんあり、えさの虫をつかまえるのや、木の枝などにとまるのに使います。

### なわばりを、いったりきたりする

ヤンマ類などは、川べりの同じ場所を、行ったりきたりして飛ぶくせがあります。メスを確保するためのなわばりがあり、そこを見張っているのです。いちど見かけた場所で待っていると、もどってきます。

### 幼虫は水にすみ、小魚や水にすむこん虫類を食べる

トンボの幼虫のヤゴは、肉食です。小さなイトトンボ類のヤゴはミジンコ、ユスリカの幼虫など、大きなヤンマ類のヤゴはイトミミズ、カゲロウ、カワゲラ、おたまじゃくし、小魚などをとらえて食べます。（監修・中山 周平）

